

平成 29 年度

第 1 回上田市総合教育会議(平成 29 年 6 月 29 日) 議事録

1 開会

2 母袋市長あいさつ

みなさんお疲れ様でございます。日増しに暑くなる気配もありますが、ご自愛ください。

今年度第1回目の総合教育会議に御参加いただき、感謝申し上げます。

まず、学園都市づくりについて、2つお話しします。

公立大学法人化した長野大学が4月に開学し、363名の新入生を迎えて新たなスタートを切りました。志願倍率10倍という難関を突破した1年生にはとりわけ頑張ってもらいたいという期待感を持っています。一方で、地域に愛され、地域の力になる大学として持続的に発展するため、今年度は諸々の計画を策定するところでございます。学内の体制整備など、将来の飛躍に向けて、まずは地固めをしている段階と承知しています。長野大学が、人材の育成を図り、地域の発展を支える人づくりの好循環を支える核となるよう心から願うものであります。

次に、新潟薬科大学についてであります。これも、御承知と思いますが、関係団体の賛同が得られず、その結果、県からの補助も期待できず、市としても単独での支援は困難となった旨を同大学に伝えたところであります。昨日(H29.6.28)同大学の理事会において上田への進出は断念という報道もありました。市としても、地方創生の観点から期待したところでありますが、残念な結果で終わったことは御理解をいただきたいと思っております。

さて、教育委員会と市長部局が、教育の課題やあるべき姿を共有し教育施策を推進する、この上田市総合教育会議は、早くも3年目を迎えました。

レビューしてみると、初年度は「上田市教育大綱」及び「第2期教育支援プラン」を策定し、2年目の昨年度は大綱や支援プランの取組みの「見える化」を図り、進捗状況を確認してまいりました。

3年目となる今年度は、市長と教育委員会のさらなる連携のもと、一層の「見える化」により明らかとなるであろう課題に取り組むことで、将来を担う子どもたちのより良い環境づくり、また、誰もが生涯を通じて学べる環境づくりを一層進めてまいりたいと考えております。

本日は次第のとおり、「教育大綱推進に向けた分野別施策の展開」および「教育委員会の主な政策課題」の2点につきまして、御協議をお願いするものです。

上田市教育の基本理念である「燦と輝く 上田の未来を紡ぐ人づくり」、この理念を踏まえて「人を育む地域づくり」を推進する分野別施策の今年度の展開や、主な政策課題につきまして、率直な御意見をいただきたいと思っております。

以上、よろしくご意見申し上げます。簡単ではございますが私からのあいさつとさせていただきます。

3 小林教育長あいさつ

総合教育会議も3年目を迎え、すっかり制度として定着してまいりますとともに、教育委員会としてもその方向付けに対して大変有意義な場をいただいたと感じているところでございます。

今回の資料の中にもございますが、学校給食施設の整備に向けた方向付けについても、この場で十分なお協議をいただいたところでございますし、少子化の中での今後の小中学校のあり方の検討におきましても昨年のお協議を踏まえまして、近々、最初の会合を持つように鋭意準備を進めているところでございます。

教育委員会といたしましては新しい学習指導要領に向けての準備が喫緊の課題でございます。たとえば、英語の教科化につきましても文部科学省は来年から3、4年で15時間、5、6年で35時間から50時間という具合に、3から6の各学年でプラス15時間を最低限として必修化いたしましたけれども、これにつきましてはできるだけ完璧な形で移行措置を行いたいと議会でも申し上げてきたわけでございますが、プラス35時間増という完全な形で、どうやって理想的な形を目指していくかということが大変大きな課題となっているところでございます。また、来年からは道德の教科化が小学校で行われますので、それへの対応も各学校と教育委員会で進められているところでございます。

本日は年度の最初の会議でございます。様々な貴重なご意見をいただき、実り多いご協議が行われれば幸いに存じます。よろしく申し上げます。

4 会議事項

(1) 教育大綱推進に向けた分野別施策の展開について

鎌原政策企画課長

資料1の構成について説明

中村教育次長

資料1により説明

- ・学校教育分野
- ・生涯学習・スポーツ分野
- ・文化芸術分野

小野塚政策企画部長

ご意見、ご質問はありますか。

内容が多岐にわたっているので、まずは学校教育分野について。

平田教育委員

詳しく内容を記入していただいたという感想を持ちました。昨年度、生活・学習ノート「紡ぐ」を作成し、今年度から小学校5校、中学校3校で試みていますが、児童、生徒や保護者、先生からの反応、状況を聞かせてください。

高木学校教育課長

「紡ぐ」は、8校で試行しております、今のところ具体的な意見はありません。
ただ、今後はアンケートの実施やご意見をお伺いし、ノートの意味や目的を伝えるとともに効果が上がるものとしていきたいと考えております。

平田教育委員

来年度から全ての学校で実施するわけですから、計画をしっかりと立てていただき、問題点等がありましたら変更、訂正し、家庭学習の充実につながる、より効果の高いノートになるよう取り組んでいただきたいと思います。

城下教育委員

教育大綱の分野別施策の展開は多岐にわたる中、まとめていただいてありがとうございます。こちらの資料はまとめてホームページにアップされるのでしょうか。

小野塚政策企画部長

そのとおりです。

城下教育委員

総合教育会議は2年目、教育大綱の分野別施策は2年目になりまして、煩雑になるといけないが、もし可能なら成果指標の目標数値に対して、今現在のレベルがどうなのか、数値を挙げたほうが年度ごとに比較できて良いと思いますがいかがでしょうか。

中村教育次長

3月の平成28年度第3回総合教育会議では平成28年度の状況ということで、教育支援プランの全ての項目に対して、目標が32年度ということもありますが、1年たった段階でどういう状況であったのか資料をお出ししてあります。今回は全ての支援プランの中ではなく、主だったものを入れておりますので、その部分だけを入れるということにはできないことはありません。3月の総合教育会議では28年度の中間的なデータをお出したのですが、32年度の目標に向かって今どの段階にいるか分かりづらいという意見が寺島委員からもありましたので、28年度から32年度に向かってグラフの線を結んで1年ごとにどの位置にあるのか示したいと思うのですが、その資料でよろしいのか、あるいは、新年度の資料を入れたほうがいいのか迷うところで、年度の報告は3月で終わっていますので、ご要望があれば入れたいと思います。

城下教育委員

1年経って2年目に入るところでグラフ化するのが早いということもありますけど、3月の資料をひっくり返せば分かりますけど、了解しました。

もう一つ、1番の教員のICT活用指導力について、成果指標が小中学校ともに100%となっていますが、それを測るのはどこを見て判断するのでしょうか。

高木学校教育課長

コンピュータ等の情報通信機器を活用し授業を行ったと答える学校の割合によります。

北沢教育委員

学力の定着向上についてお話ししたいと思います。学力の定着向上には2つポイントがあると思っています。一つは学級づくりです。言葉を換えれば学ぶ集団のあり方と言っていると思います。二つ目は、資料に書いてある「学力検査・調査を活用した実態把握」からの授業改善。学力向上委員会からの提言による授業改善などです。

授業改善についてお話しします。実際に学校訪問してどうか。授業参観してみると、授業改善に対する取り組みが学校によって二極化しているのではないかと思います。具体的に言うと、校長先生が説明して下さるグランドデザインや学校要覧に授業改善のポイントなどが、どこの学校にも書いてあります。しかし、授業を見ると、本当に職員一人一人が意識してやっているかどうか疑問に思うこともあります。逆に学校職員が一丸となって取り組んでいる学校もあります。指導力に差があるのは当然です。良い授業もあるし、もう一歩かなと思うこともあります。大切なことは、「学校として、授業はこういうことを大事に取り組みましょう」と意識して取り組んでいるかどうかです。グランドデザインは書いただけ示しただけ、そういうことが非常に危惧されます。

学力向上委員会による授業改善の提言の中身は把握していませんけれども、是非、各学校の考えている授業改善のポイント、方策、施策、取り組みが本当に実施できているかどうか、そういう目で委員会が機能するというのも一つかなと私は思っています。

県内の成果を上げている学校と上田市との違いがどうなっているかということ、一つは、上田市は外部の指導者が案外少ないのではないかと思います、たとえば、大学の先生が講師になって入っている例をあまり聞かないです。近くでいうと、青木村では入っています。

上田市の場合は、長野大学の特別支援教育の関係の先生を年に何回か招聘して研修している学校はあります。けれども、各教科の授業改善と言ったときに、外部の力をどう活用しているかと言ったら、私は少ないと思う。東信教育事務所の指導主事の先生方をうまく活用している学校も上田市内にも何校かあって、それもよいと思います。学校内だけの職員の研修で改善が進んでいけばいいのですけれど、進んでないとしたら、やはり外の力を考えていく必要があるのかなと私は思います。

長野大学には義務教育の現場を経験してから教授になった人もいます。せっかく長野大学が公立化して新しい体制になったのですから、是非、授業改善について関わっていただくのも一つの方法かなと思います。その際に、学生と児童生徒との関わりをどう考えていくのか。たとえば、小学校の5～6年の英語の教科化、3～4年生の外国語活動の授業に、長野大学の学生がどう関わってもらえるか、そういうことを模索してもいいのではないかと思います。

全く違う項目ですが、ICTの活用やタブレット、パソコンの導入は、学力の定着向上の一つの方法論としては良いのですが、1番(学力検査・調査を活用した実態把握と授業改善及び学校評価を通じ、わかる授業、楽しい授業を推進)と2番(ICTを活用した効果的な授業の推進)と3番(学習習慣を身に付ける家庭学習の充実)を並列に挙げていいものかということ、私は違うと思います。あくまでも一番の命題は学力の定着と向上、これに対してどのように取り組むかということだと思います。

浪方教育参事

今、委員さんがお話しされたとおり、私もずっと学校を訪問している中で感じていることがあります。外部が入って研修している学校は、大きな成長が認められるのが実際であります。

何らかの方法でということいくつかお話しをいただきました。学力向上委員会がここ4～5年間、県外視察をし、委員自身が研修を受けてそれを取り入れる中で県外との交流も増えている、学んだお力を是非上田市でも広げていただく、そういう方法も進めているのですが、その方たち自身が授業改善について検証していく、そういう主体性を持っていただくことを考えてまいりたいと思っていますし、外部が入るといことは非常に有効であるといことは私も実感しておりますので、うまく模索できればと思っています。

鎌原政策企画課長

長野大学は学園都市づくりの核になる大学ということで、4大学と連携していくという中でどういった展開ができるか、広げていかなければいけないという段階でございますが、長野大学を含めた大学においては放課後学力アップ事業ということで一部の中学校ではあります、生徒の授業に大学が関わって実施しております。小中学校のご要望もお聴きする中で、今後さらに具体的にしていきたいと思います。

寺島教育委員

分野別施策の中で一番重点に挙げているのは学力の定着向上なのですが、全国学力・学習状況調査、これにこだわるわけではないのですが、今までの上田市全体の平均が公表されてきているわけですし、最終的には全国平均を32年度で上回るのが目標で、そのプロセスのところで、ずっと続けてきているのですが、実態がどういう風に分析されて、その分析に基づいてどうやっているか、正直私には見えていないのです。どういうことかと言いますと、点数だけ上げればよいというものではないけど、弱いところを強くし、強いところを強くする。現実にはたとえば算数・数学でいえば上田市の子供たちは他所に比べてこういうところが弱いのだということが分析されていけば、そこに授業改善も含めてアプローチすればより良くなるはずですが、そのところが分析課題、じゃあ学校現場でどうしているのかというところがリンクしていない。未だに点数の発表だけで終わってしまっている。あるいは、分布状況で平均より下の層にはたくさんいて、そのところを少し持ち上げれば全体が上がるという構造になっているのか、あるいはそうではなくて、ある程度は平均まで来ているとして、これから全体を上げていくには優秀な人をもう少し伸ばせば点数も上がるし、相乗的に上がっていくのだろうという全体の分布構造がどうなっていて、どこに手を入れていけば上田市の子どもたちが成長していけるのかというところが、多分、指導主事の先生たちを中心に取り組まれているとは思いますが我々には見えていない。したがって、ただ毎年毎年点数が発表されて、具体的にどこを深掘してどうしていくのだと、5年後はここを強くする、としっかりやれば多分5年後の目標は作れるのですが、単年度で点数を並べるだけではいつまで経っても同じことの繰り返しだと思う。やはり、きちんと出ていることを分析して教育委員会としてどうするのか、学校現場としてどうするのか 具体策をしっかりとやらないと学力の定着向上というのはお題目を毎年挙げて、重要だと皆で言いながら、実際にはそれだけで終わってってしまうのではないかと懸念しています。細かいことは専門家にお任せしますが、正直言って私には見えていない。具体策をやってほしいなと思います。

それからもう一点、長野大学がようやく公立化になったということで、出前講座を30講座とのことで書いてありますが、このプランは2年目ですので、もう少し具体的にしていけないと、今年はお題目は具体的にどういうものがあるのか、お題目だけでなく、どこの学校でどういう講座をやるかということ、もう少し大学と小中学校の連携の具体的な項目を決めて、一

つ二つでも実のある形に持って行ってほしいなと思います。連携推進という言葉だけが踊ってしまって中身が付いていないような感じがするので、そこがこれからの課題ではないかと思っています。

浪方教育参事

学力向上委員会を通じて同じように分析したものを先生方と一緒に検討して参りました。

毎年大学の先生にも分析していただきながらやってまいりまして、その結果につきまして、委員さんがおっしゃるとおり、下の層を底上げする。それから、高い層を更に伸ばすと、これはずっと続いた課題です。具体的な内容について、北沢委員がお話いただいたように、やはり授業改善に焦点が当たりました。もう一つ、全国の学力調査は、4月に行われますので、前年度の5年生の時、あるいは、中学2年生の時の勉強の結果が、反映されます。その学年のところでどんな授業を仕組んだらいいか、問題に対して本当に強くなるにはどうしたらいいのかということで、そこで小中連携で算数数学の先生方に実証していただくということをやってまいりました。しかし、上田市全体で特徴付けて重点的に何をすれば右肩上がりになるのか、そこまでは私どもも正直言って見えておりません。もう一つは、授業改善に関しては先生方のお力がまちまちであって、学校によって違いますし、子どもたちの歩みがあります。指導主事会議でいつも勉強している中では、学級づくりがやはり一番だろうと、学級が安定していない限りは授業を云々言っても計画で終わってしまって子どもたちが本当に学校が楽しい、授業が分かった、というところに行きつかないと思っています。学級経営は両輪の一つでありまして課題としては大きい部分であります。何とか多くの先生に御理解いただいて、これをすれば必ずこうなりますよ、というものが見えてきているのは事実であります。更に深めてまいりたいと思っております。よろしく申し上げます。

鎌原政策企画課長

大学連携の関係で出前講座を30講座ということになっていますけれども、昨年7月に海野町に「まちなかキャンパス」を設置しておりますが、そこでの開催数が目標になっているという捉えであります。今年度の初めの段階で4つの大学で実施する講座が20講座となっております。今後さらに増えるものと思っております。4大学以外でも筑波大学や水産研究所の講座も入ってきている状況で、一般市民を対象にしたもの、学生や小中学生でも参加できるもの、教職員を対象にした専門的なものなどもあります。さらに内容や講座数を充実させながらやっていきたいと思っておりますけれども、数だけではなく具体的に分かるものをお示しするなど工夫していきたいと思っております。また、全小中学校との連携事業につきましてもご意見がございました。授業での関わり、課外授業での関わり、地域づくりでの関わりなどいろいろあると思いますが、具体的に多くの分野で関わられるよう検討してまいりたいと思えます。

寺島教育委員

まちなかキャンパスのことは承知しています。それはあくまでもどちらかといえば生涯学習と関連しているわけであって、施策の展開で挙げているのは幼保小中高大連携ですから、とりあえず我々が期待しているのは小中の義務教育との繋がりですから、学校教育現場と長野大学がどういう風に連携していくのか、一つでもいいから具体的に進めていただきたいというのが希望です。

母袋市長

それぞれお話をお聴きして感ずるのは、2年目ということでこれから成果的なものとか、施策転換をより図られていくという思いもあるのですが、32年度までの過程も大切なので、項目によっては5年間のロードマップ的なものを作ってみることが必要だと感じました。大学の話が出ましたが、せっかくある大学の資源は地域として遠慮無く使い切ることです。それには、当事者とのコミュニケーションが大事だと思う。大学側にある能力が、学生にしる、教授にしる分らないのですよね。私もみなさんも、それにはまず、コミュニケーションをとらなければ駄目だと思うので、それを求めます。

そういう中で二つお話がありますが、一つは学力の話がありましたが、これはもう最大の課題だと受け止めながら、ICTがツールにすぎないという話がありましたが、実はこれを使いこなしている先進都市がいくつかあって、すごいです。先日、全国市長会の情報分野の会議があって顔を出しましたが、ショックを受けるくらいのことをやっている都市があります。それを全く見習えとは言いませんが、今の子どもたちを見ていると、教室でのタブレット・パソコン等を使っているものの覚え方というのは見事です。これがあまり高じてしまうと如何という思いはありますが、しかし、確実にそういう方向に行くだろうと思います。ですから、32年度までは施策展開に書かれていることで良いが、並行して先進都市との情報格差が起こらないよう模索してほしいと思います。上田もこういう展開をしていこうじゃないかという検討をしてほしいです。ICTを馬鹿にしてはいけないというのが最近の私の強い思いです。

それからもう一つ、英語教育は教育委員会だけが対応という話ではなくて、市長部局での対応が必要だと思います。学校以外での時間帯を活用して、先ほどお話しがあった公民館やALTの活用など、私は大賛成です。現状、公民館や市民ボランティアの活動の範囲でどんな取り組みがなされているのか、皆さんは把握されているのか、あるいは何か仕掛けているのか、それについてお聴きしたい。

高木学校教育課長

ICTの関係ですが、市長は無線LANの整備が上田市では無いというグラフを見ておっしゃっていると思うのですが、現在、上田市全ての小中学校では全教室に校内LANが整備されておりますので、どの教室からもインターネットに接続できるようになっております。特別支援教室については全て無線LANを整備中でありまして、今年度中には完了する予定です。

タブレットについては、県の養護学校等が既に導入しておりますが、支援の継続性と言うことを考えて上田市でも特別支援学級に導入するという方針に基づいて準備を進めており、人数分のタブレットが入る予定になっております。無線LANについては国の補助事業が用意されたということですので、今後、財政当局とも協議をし、計画的に環境整備を進めていきたいと思っております。それと併せて、教員のICTの活用指導力が大事になってまいりますので、十分に準備を進めてまいりたいと考えております。

公民館を利用した英語の活動ですが、西部公民館に加えて丸子地域、武石地域でも英語の楽しさを感じる活動や、絵画工作教室の中で簡単な英語学習を加えたものを行っているものなどが出てきておりますので、今後、英語の授業が小学校でも導入されますので、英語に触れることができるよう公民館等とも協力して裾野を広げてまいりたいと思います。

母袋市長

分かりました。結局、ICTはハード面はタブレットがあるんだけど、肝心なのはソフトですね。どう使いこなすかということを検討してもらいたと思います。

英語の話は、市民の力を活かすような方策を強めてほしいです。小学生の英語だから、教えてあげられる人はたくさんいる。そういう場面を作ってあげることが大事だと思います。

小野塚政策企画部長

2ページ目の、生涯学習や文化芸術の分野について、ご意見はいかがでしょうか。

北沢教育委員

二つお願いします。一つは、図書館のあり方ですけれども、これからの上田市の図書館には非常に期待しています。月に何回か利用し、いつも有り難いなと思っていて、図書館がどうなっていくのか非常に興味があります。既に整備された丸子図書館などがありますが、市内の全ての図書館は、場所によってそれぞれ特色があっていると思っています。利用者は、学生が多いとか、子ども連れのお母さん方が多いとか、特徴があると思います。ですから、規模や形態は違っていいし、図書館の中に育児スペースや高齢者のためのコミュニケーションスペースとか、公民館的な機能を持たせることも検討していいと思います。サントミュージゼは、長野、松本、飯田等、県内の誰でも知っています。皆、すごいと言います。サントミュージゼは上田市の文化の指標だと私は思いますし、図書館もそれになり得ると思っています。図書館を是非大事に考えていただきたいと思います。

二つ目はサントミュージゼですが、吉田博展は大変素晴らしいものでした。あれだけ素晴らしい施設があるので、是非子どもたちとの関わりを大事に考えてほしいと思います。小中学校の図工や美術の授業の中で「鑑賞」という分野がありますが、学校の授業とどう連携ができるのか模索してほしい。ある市ではスクールバスを出して「鑑賞」に行くところもある。

もっと大事に考えたいのは幼稚園や保育園、小中学生の日頃の活動です。創造的な活動ができるスペースがあるはずで、完成した頃は若干話題になったんですが、今はあまり話題にならない。日常的に幼保小中との連携ができればよいと思います。また、高校には美術部があります。児童生徒とサントミュージゼとの関わりをもっと考えてもらえたらと思います。

小林生涯学習・文化財課長

ご意見ありがとうございます。今年度中に図書館基本構想を策定するというところで、社会教育委員へ諮問をさせていただいて今検討しているところです。各図書館の特色というものが大事だということで役割の明確化も中に入れておきまして、図書館にはやはり、子育て支援、人づくり支援、まちの活性化が図れることが大事だということで、上田図書館を中央図書館とした機能を持たせながら、情報ライブラリーはビジネス支援、丸子・真田・武石については地域の特色を活かした地域資料の収集というような形を入れ込んだ、特色ある図書館づくりを構想の中で盛り込んでいるところです。また、施設についても、かなり古い施設ですので建て替えの検討ということも入れなければいけないのですが、基本構想の中では上田市全体でどれくらいの規模が必要であるとか、どんなあり方を目指していくのかを入れ込んだ上で、それぞれの図書館に特色を持たせて地域に合った形になるよう検討を進めているところですので、よろしくお願いします。

小野塚政策企画部長

サントミュージゼ、美術館の担当者がいないので私からお答えします。吉田博展はお陰様で大変好評をいただいております。1万4千人余の方々にご鑑賞いただいております。立派な美術館ができて、色々な企画展をやっておりますが、多くの子どもたちに見てもらいたいという思いは私どもの方も同じですので、学校教育の一環でお越しいただけるのであれば大歓迎ということではありますが、その中で課題になるのは移動手段だと思います。その点をクリアしていきたいと思っております。

美術館で主催している事業として、子どもアトリエがあります。こちらはなるべく小さいうちから始めた方が良くということで、アトリエに来てもらって体験いただければそれが一番良いのですが、やはり距離的な問題や安全確保の問題があって集団では行けない保育園等がありますので、子どもアトリエの手法を用いてアウトリーチ的に学校や保育園に赴いて指導することができます。あるいは、学校や保育園の先生が学んで、指導者として自分たちの学校や園に持ち帰って指導してもらうことも十分可能です。なるべく多くの児童・園児に子どもアトリエを体験してもらいたいと思っておりますので、これから進めていけるよう教育委員会でもご協力をお願いします。

中村教育次長

バスについてですが、教育委員会には55人乗りの大型バスがあります。このバスは創造館ができた当時に小中学生がプラネタリウムや理科の時間に実験等を行うに当たって、行く手段が無いところからバスを導入した経過がありまして、サントミュージゼができてからも各小中学校の児童生徒がバスを活用するということが可能となっております。

城下教育委員

二点お願いします。一点目、神川地区公民館と神川統合保育園の併設という話ですが、生涯学習の成果を子育て支援に反映できるようにというソフト面を私は非常に期待しております。核家族化の中で子どもたちも年配のご家族と触れ合う機会が少ないですし、小さな子どもを育てている母親が孤独感に苛まれることがあるので、子どもたちだけではなく保護者もうまく巻き込めるように非常に期待しています。

二点目ですが、健幸都市うえだの実現に向けてということで、ラグビーワールドカップのキャンプ地誘致に向けて動いているということで、それと関連づけできないかもしれませんが、心のプロジェクトで来ていただける選手にはラグビーの選手を是非呼んでいただいて、子どもたちに本当のラグビーは体験できなくても、誰でもできるラグビー(タグラグビー)を一流の選手たちが怪我のないように、楽しさを教えていただけるような、子どもたちを上手く巻き込んで、菅平だけでなく身近なところからも動きを起こせるような取り組みがあると嬉しいかなと思いますのでよろしくをお願いします。

小林生涯学習・文化財課長

神川公民館の整備の件ですが、公民館と保育園の併設は初めてのケースとなります。設計している中でも、大ホールだったり多目的ホールだったり、仕切りはできていますがお互いに使えるところができているということで、そういうところで生涯学習で公民館を使う方たちとの世代間交流を行うことができるということもありますし、健康づくりなんかもそうなんです。保育園の発表会や入園式などに公民館利用者の方たちにも参加いただくこともできます

し、自分たちの経験を活かしながら生きがいとして子どもたちと関わり、子どもたちも大人たちの経験を吸収することもできます。まずはモデルケースとして見ながら、交流ということを考えてやっていきたいと考えております。

池田スポーツ推進課長

ラグビーですが、2019年にワールドカップが開催されるということで菅平での事前キャンプ地誘致活動に取り組んでいるところです。今年度につきまして、「夢の教室」はどの先生に来てほしいかということは基本的に出来ないのですが、実は既にそういうことも踏まえまして、主催している日本サッカー協会に何とかできないかとお願いしております。登録の先生方は大勢いるんですが、その中でラグビーの関係者というのは現役を引退した方も含めて数名になると思います。そういったところでできるだけ配慮いただけないかと依頼しており、期待しながら待っているところです。

また、タグラグビーあるいはタッチラグビーについてお話いただきました。ワールドカップに向けてお迎えするほうも市民を挙げて、子どもたちもワールドカップに出るような選手を間近で見るとはなかなかできませんので、選手を見る体験、あるいは上田市はラグビーワールドカップに向けた取り組みを子どもたちからやっているということも含めまして、タグラグビーあるいはタッチラグビーを普及させたり、体験させていくような取り組みを進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

母袋市長

今のラグビーの件ですが、東京オリンピック・パラリンピックも含めてなんですが、一つはキャンプ地誘致の課題、それからホストタウンとしてどう上田市として取り組むか。現状では中国には決定してもらって、スイスには手を挙げているさなかです。決まればホストタウン構想を上田市としてどう取り組むか。それからもう一つは、スポーツと文化との融合です。まさにオリンピックのレガシーづくりにも関与するのですが、スポーツと文化との融合ということが憲章でも謳われているわけですね。したがって、折角来るビッグスポーツ大会にどう上田市として関与するのかが大きなテーマであり、なканずく、私は子どもが重要だと思うんです。こんなスポーツ大会は二度と来ないかもしれない。私はこれで二度目ですが、小学校6年のときが東京オリンピックでした。その印象が強く残っていて、じゃあそれが今どう生きているかと言われればそれまでだけど、思い出として残れるというね、ここですね。それが近くで行われるのだから尚更のこと、菅平をはじめサントミュージーゼも利用しての仕掛けを考えていきたい。それは今からあれこれ想像してみるということですね。そういうことをそろそろ始めてほしいと思っています。

担当課だけでなく皆で考えていくということです。

小野塚政策企画部長

市長部局と教育委員会、全市を挙げてやっていくということでお願いします。教育委員の皆様もご理解いただくようお願いいたします。

教育長、全体を通して何かありますか。

小林教育長

本日は貴重なご意見をいただきました。学力の件でよろしいでしょうか。寺島委員に言われ

たのですが、分析までは割ときちんとやっていると思っています。では分析をして弱点が見つかった時にそれをもう一回戻していけるかというところができているか。それから、北沢委員が言われたように、チームとしてたとえば分析した人と実際教えた人が違うわけですが、「先生、ここは教えていないのではないのでしょうか。ここをもう一回教えなおしたほうがよいのではないのでしょうか」、ということが言えるかどうかということだと思えますよね。分析のあと、どこが良くないかが見つかったら徹底してやるか工夫をする、もう一つはチームとして対応ができるかどうか、その辺の弱点をご指摘いただいたと思いますので、学力については十分配慮したいと思っております。

小野塚政策企画部長

様々なご意見をいただきまして、直す部分や付け加える部分等がありましたら、またご指摘をお願いします。

それでは、次に移ります。教育委員会の主な政策課題について説明をお願いします。

中村教育次長

資料2について説明

平田教育委員

お願いですが、こちらの政策課題を進めるに当たっては、常に進捗状況を分かりやすく市民の皆さんに開示していただいて、責任の所在を明確にしておいていただければ有難いと思います。

また、教育支援の関係でお話があったところに私の思いを付け加えさせていただければ、教育委員会の中には教育支援、英語教育、情報教育などにそれぞれ担当の指導主事が先生方に向けての研修会や子どもたちに向けての支援活動をされていらして、拝見させていただいた中でも取り組み内容が充実していると感じたわけですが、その取り組みを先生方や子どもたちが活かしているのかという点で、学校訪問をすると、もったいないと思うことがあります。どんな形でその研修を先生方に受けいただき活かしていただくか、そして、子どもたちにも、たとえば英語のウィークエンドキッズイングリッシュに参加させてもらったのですが、ゲームを交えた内容で子どもたちが楽しそうに取り組んでいる姿に英語に親しむ場としても有効であると感じましたが、参加人数が少なく、どんな方法で子どもたちに情報を伝えるかということが課題であり、そのあたりを教育委員会が、市長部局とも連携をしてどう広報していくかが大切だと思います。

それと、学校間の情報交換がもっとスムーズにできれば良いと思います。特別支援教育の例を挙げますと、経験からうまく取り組んでいる先生もいれば、今現在大変困っている先生もいらっしゃる。A学校のノウハウはB学校に活かせるのではないかと、それらの情報交換を教育委員会の中で繋げられたら、学力向上ももちろんですけど、学級づくりにも活かしていけるのではないかと思います。

今後、道徳教育、英語教育が始まり、2020年度には大学入試センター試験の変更などがありますので、不安に思っている保護者も多いのではと感じます。一つ一つ丁寧に進めていただければありがたいと思います。子どもたちに不公平感のない学校づくりのために教育委員会、市長部局との連携、そしてもちろん教育委員としても一生懸命取り組んでいかなければと思っています。

中村教育次長

市民への情報提供は大事であると思っております。特に1番の小中学校のあり方の検討につきましては、懇話会を設けて何度か議論をいただく予定ですが、基本的に懇話会の議論は公開ということになりますので、当然市民の方にも公開して議事録等はホームページにアップするということになります。ただ、なかなか1年くらいで決定ができるわけではありませんで、私どもが考えているのは、この研究懇話会は上田市の教育の大きな方向性について教育委員の皆さんにも入って議論をいただいて、できれば年度内に提言という形でいただけないかと思っております。

それから、8番の給食の関係につきましては、まだ細部が詰まっておりますので、大きな枠組みが決まった段階で住民説明会を開催する中で上田市としての方向性をお示しし、市民の方に更に意見をお聴きして進めたいと思っております。

寺島教育委員

資料2の1ですが、中村次長からも説明がありましたが大変大きな課題だと思っておりますので、しっかりと取り組んでほしいということです。それから3の組織のあり方の見直しですが、今の組織でどこが不足ということはないのですが、いつまでも同じ組織でいいのかということもありますので、将来に向けてどういう組織がいいのか、しっかりとした研究をしていただきたいと思います。

城下教育委員

一番大事なのは、政策課題を教育委員会事務局も市長部局も含めて、こちら側だけで課題とするのではなく、地域住民にも共有してもらって一緒に進めていくということが大事なのではないかと思えます。どの項目に関しても、事務方が結論ありきで進めるのではなく、住民にも課題を共有してもらいながら方向付けをしていくということが大事だと思います。これからの学校のあり方というのは、派生してまちづくりをどうするのか、その辺まで含まれてくるような気がします。学校があることでその地域の核となって色々なものが循環するのを見てきましたので、共有してもらおうべく、こちらも動いていかなければいけないと思います。

もう一点は組織について、私の希望ですが、教育支援プランの取組の一つ一つに担当者を付けるのは無理だとは思いますが、誰が責任を持って推し進めていくのかは分かった方がよいと思います。人事については、市長がいらっしゃる場で気が引けますが、教育委員会事務局にいらっしゃる方はできるだけ長めに置いていただきたいです。できるだけ長いスパンで教育に携わってくださると政策課題も進められると思います。教育行政に関しては、プロフェッショナルを育てていただきたいです。

小野沢教育総務課長

学校施設は、第一義的には児童生徒の学びの場ではありますが、一方で防災、保育、地域の交流の場、コミュニティの核といった性格を持っていますので、これから数年掛けて検討を進めてまいります。初年度は方向性を出す場として、教育の専門家や市民の色々な層の方、PTAを含め地域の企業の方などに入っていただく検討委員会を立ち上げて検討していきたいと考えています。まちづくりについても市長部局と連携しながら、検討していきたいと考えております。

組織については、いわゆる組織図に掲げられるような組織と、そこにいる人の問題がある

と思います。組織は人があって動くものなので人が動きやすい組織にするにはどうすればいいのかが、人材育成や人事として教育委員会ではどういうスタンスで人を育てるのか、そのあたりを含めた議論を今年度からスタートしたいと思います。たとえば専門職として、学芸員を採用したいと総務部に話をしたら今年から採っていただけることになりましたので、そういう点も含めた広範な検討を進めたいと思います。

人事のスパンについては私の口からは何とも申し上げられません。

北沢教育委員

教育委員会の組織のあり方ですが、職員の在籍期間を長くした方が良いかどうかは、人によりけりだと思いますので、今の教育総務課長のご発言を大事にさせていただきたいと思います。

小林教育長

ご意見ありがとうございます。

小野塚政策企画部長

全体を通してご発言はありますでしょうか。

寺島教育委員

資料1で、先ほど市長からも話がありましたが、ICTの活用について、上田市にはマルチメディア情報センターという他にはない立派な施設がありますので、是非活用していただきたいと思います。今でも色々な連携で活用しているとは思いますが、できれば教育に特化した形で活用すればかなり有効だと思います。将棋の藤井四段がここにきて急速に力を付けているのは、パソコンを使っていると思いますが、プロですから単純なソフトではなくてAIの手法を活用して、若いだけに吸収力が良いからだだと思います。

全ての分野ではなくて、ICTはそれぞれの子どもに適したように使えば、能力を伸ばせるところはかなりあると思う。マルチメディア情報センターを核にしたICT教育に上田は取り組んでいただきたいと思います。

小野塚政策企画部長

マルチメディア情報センターのあり方については審議会を設けて検討しているところですが、年度内には答申が出される予定になっておりますが、担当課には今のご意見をお伝えしておきます。

様々なご意見をいただきました。本日の会議事項は以上とさせていただきますが、最後に次回の予定ですが、年3回開催してきておりまして、2回目は10月頃、3回目は2月頃に開催していきたいと思っておりますが、よろしければこのとおり日程を調整したいと思います。

以上で閉会とします。ありがとうございました。